

## 3回の講演の要約

### 【1回目の講演】

中国，天津外国語学院，2009年9月22日(火) 14:00－16:00

「日本語学習者の継続評価と分析法」の講演

名古屋大学大学院国際言語文化研究科・日本語教育学講座・教授

玉岡賀津雄

テストの種類を内容，目的，規準の観点から全体的に解説した。そして，日本語教育の現場で集められた定期的なテストをMicrosoft Excelを使って記録し分析する方法を説明した。実際に天津外国語学院で行われた日本語学習の単元ごとのテスト結果を継続的に分析し，グラフ化し，クラス全体の到達度を把握する方法について，具体的に説明した。

### 【2回目の講演】

中国，天津外国語学院，2009年9月23日(水) 9:00－11:30

「若者言葉と短縮語」の講演

名古屋大学大学院国際言語文化研究科・日本語教育学講座・教授

玉岡賀津雄

近年，さまざまな短縮語が，特に若い世代で作られるようになってきた。それらは一般的に若者言葉の一種として分類されることが多い。短縮語は，一見すると全く新しいタイプの語彙に思える。しかし，よく解析してみると従来から使われてきた規則に従って，既存の語彙を組み合わせて造語されていることが多い。講演では，さまざまな新しい短縮語を紹介して，その造語の特性について解説した。さらに，これらの新しく作られた短縮語の使用頻度理解についての調査を報告した。新しい短縮語が世代を超えて広く使用される背景要因として，心理・社会・歴史的背景（米川，1998）ばかりでなく，「着メロ」や「メル友」，さらに「アケオメ」の波及から推測できるように，情報技術の革新による影響が強いことを説明した。しかし，作られた短縮語も，やがて使われなくなったり，特定の世代でのみ使われるようになっていたり，あるいは世代を超えて波及したり... 絶え間のない出生死滅過程を繰り返していると考えられることを説明した。

### 【3回目の講演】

中国，天津外国語学院

2009年9月25日(金) 16:00-17:40

「日本語学習者による和製英語の理解」の講演

名古屋大学大学院国際言語文化研究科・日本語教育学講座・教授

玉岡賀津雄

和製英語(Japanized English loanwords)とは、英語から入った外来語を構成要素とする日本語化された単語である。たとえば、「テーブルスピーチ」などで、日本語にあって英語にはない表現(意味)である。こうした和製英語は4種類に分類される(柴崎・玉岡・高取, 2007)。(1) 英語として存在するが、英語の意味とは異なる意味で使われるも、(2) 英語の単語または複数の単語を変形、あるいは短縮して作られたもの、(3) 英単語には存在しないが日本語のなかで使われるようになったもの、そして(4) 実際に存在する英単語を組み合わせることで英語にはない新しい意味を表すようになった合成語である。英語に存在するかどうかにかかわらず、和製英語は外国人の日本語学習者にとって学ばなくてはならない日本語の語彙である。さらに、講演では、英語を母語とする日本語学習者は、日本語を学習するとともに、日本文化についても自然に学んでいく。それならば、知らない和製英語であっても、それらの意味を類推することができるようになるのではなかろうか、という予測を証明するための研究(柴崎・玉岡・高取, 2007)を紹介した。アメリカの大学で日本語を1年以上学んだ経験のある大学生36名と同じ大学で日本語学習経験のない大学生35名の和製英語の既知度と意味推測度を比較した。その結果、日本語学習の有無にかかわらず和製英語の既知度に違いはなかった。ところが、日本語学習経験のある大学生の方が経験のない大学生よりも有意に和製英語の意味を正しく推測していた。日本語学習の経験が、まだ見たことのない和製英語の正しい意味の推測を促進していた。さらに、講演では、和製英語から韓製英語として朝鮮語に借用された研究(玉岡・林・池・柴崎, 2008)にも言及した。